

犯罪学

科目ナンバリング CRL-303
選択 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は、前半で個別犯罪の実態と対策を取り上げるとともに、日本の刑罰制度(死刑、自由刑、財産刑)の現状と課題を検討する。後半で、犯罪学の伝統的な理論を回顧し、現在にも通ずる犯罪理論を模索する。授業全体を通じて、犯罪と刑罰について多角的に捉える視座を養う。

2. 授業の到達目標

- ①個別犯罪の実態を分析し、有効な犯罪対策を検討することができる。
- ②日本の刑罰制度に関する専門的な知識を身につけ、現状と課題を具体的に説明することができる。
- ③伝統的な犯罪理論の分析を通じて、犯罪とは何か、刑罰とは何かを多角的に捉える視座を養う。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価するが、感想文やレポート等を課すこともある。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%である。授業への貢献度は、課題の提出状況や授業態度等によって総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の教科書をお勧めする。詳細は、第1回のオリエンテーションの際に説明する。

守山正・安部哲夫〔編著〕『ビギナーズ犯罪法』(2020) 成文堂

守山正・小林寿一〔編著〕『ビギナーズ犯罪学』[第2版](2020) 成文堂

岡邊健〔編〕『犯罪・非行の社会学―常識をとらえなおす視座』[補訂版](2020) 有斐閣

守山正・安部哲夫〔編著〕『ビギナーズ刑事政策 第3版』(2017) 成文堂

参考文献

法務省法務総合研究所〔編〕『令和2年版 犯罪白書』 法務省HPから閲覧可

井田良＝太田達也〔編〕『いま死刑制度を考える』(2014) 慶應義塾大学出版会

朴元奎＝太田達也〔編〕『リーディングス刑事政策』(2016) 法律文化社

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しなが、復習しましょう。疑問点が出てきたら、図書館を大いに活用し、テキストや参考書等を熟読した上で、学術論文等にもあたってみてください。刑罰論については、法務省や警察庁など公共機関のHPも参考になります。自分で調べても答えが出ない問題については、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

- ①春期の「少年法」を同時に履修することが望ましいです。さらに、秋期の「刑事政策」と「被害者学」を履修することで、刑事法全体に関する理解が深まります。
- ②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 【第1回】 | オリエンテーションー犯罪学と刑事政策／犯罪統計についてー |
| 【第2回】 | 個別犯罪対策① 薬物犯罪 |
| 【第3回】 | 個別犯罪対策② ストーカー |
| 【第4回】 | 個別犯罪対策③ 高齢者犯罪 |
| 【第5回】 | 刑罰論① 死刑その1 |
| 【第6回】 | 刑罰論② 死刑その2 |
| 【第7回】 | 刑罰論③ 自由刑 |
| 【第8回】 | 刑罰論④ 財産刑 |
| 【第9回】 | 刑罰論⑤ 刑罰と処分 |
| 【第10回】 | 犯罪学① ようこそ犯罪学の世界へ／犯罪学の父! 犯罪生物学の展開 |
| 【第11回】 | 犯罪学② 犯罪心理学・犯罪社会学の展開／サザランドの登場 |
| 【第12回】 | 犯罪学③ デュルケムの発想／シカゴ学派と社会解体論 |
| 【第13回】 | 犯罪学④ 漂流理論・ラベリング論・コントロール理論 |
| 【第14回】 | 犯罪学⑤ 環境犯罪学 |
| 【第15回】 | 春期のまとめと試験(予定) |